

個別施策シート

【第4分科会】 農業・林業

	個別施策名	本市の地域資源と課題	施策の方向	実現のための提言
1	ブランド米の推進	旭川には、きらら、ゆめぴりか、ななつぼしなど全国的なブランド米がある。しかし、コシヒカリやあきたこまちなどと比較した場合、それに勝るものではない。また、全国的に米のまちというPRに欠けていることから、旭川の米はおいしいというイメージの定着と付加価値商品の開発が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド米を作る研究体制をさらに強化する。 ・ブランド米のまちを全国的にアピールする。 ・他産業との連携も図り、米を核とした付加価値的商品の開発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランド米研究員、研究設備等の増強 ・ブランド米産地としてのプロモーションの展開 ・米を核とした商品開発のプロデュース機能と連携コーディネータの設置
2	魅力的農業の継承	旭川及びその近郊地域では、豊かな自然から高品質な農作物が生産され、また、クリーン農業への取り組みが成果を上げている。しかし、農業従事者数は減少の一途で、さらに高齢化も加速している。	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の法人化を推進し、組織として取り組みを強化する。 ・農業のICT化を推進し、生産効率を上げる。 ・若者や他の業界が就農しやすい体制を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業法人の推進（内部増強と誘致） ・農業生産システムのICT高度化推進体制の整備 ・新規就農者の生活・教育支援体制の整備
3	農産物販売力の強化	TPPについて、北海道では、米、小麦・大麦、牛・豚、乳製品、砂糖・でんぷんの5項目に影響があり、旭川でも、70%以上の分野に影響が出ると推測される。その中で、北海道の食料自給率は170%以上あり、道内では消費しきれないため、道外への売り込みが必要となる。	<ul style="list-style-type: none"> ・産地間競争に勝てる農作物を作る。 ・6次産業化による販路拡大と、二次産業・三次産業との連携による効率的生産・販売を行う。 ・国内外北海道物産展で顔の見える旭川農作物の販売を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優良農作物への品種改良研究費の確保 ・6次産業化への教育支援 ・二次産業・三次産業とのマッチング機会の創出 ・国内外北海道物産展での旭川農作物の営業支援
4	広葉樹を生かしたエコ社会の推進	大雪山の周りにはナラ・カバ等の優良な広葉樹資源が豊富にある。また、地元の広葉樹を使って家具を作れる産地は旭川しかない。	<ul style="list-style-type: none"> ・日射率を考えた植林や適切な伐採などによる健康的な森林を作る。 ・地元産木材、特に広葉樹を使った家具や建材を積極的に作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康的な森林の育成計画と実行支援 ・地元産広葉樹を使った旭川家具、建材の活用推進
5	樹木資源の地産知商の循環	日本の森林率は約70%あるにもかかわらず、その木材自給率は、30%にも満たない。旭川には、旭川家具が使う360倍の木が育っているため、地元の木材をもっと使わなければいけない。このような豊富な資源を有効活用する知恵を集めて商業化するとともに循環型の流通も構築しなければならない。	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川プラチナタウンの魅力的核商品に旭川家具を活用する。 ・他業界においても旭川家具の知名度を高める活動を展開する。 ・人間工学的な機能的家具・建具の開発・販売を展開する。 ・市民に対し、家具等の使い捨てはやめ、修理して使う意識を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・富裕高齢者による旭川プラチナタウンの構築 ・観光業、サービス業、医療・教育産業等での旭川家具の活用推進とプロモーションの展開 ・人間工学的な機能性デザインへの開発支援 ・リフォームやリペアの推奨

個別施策シート

【第4分科会】 製造業・インフラ業

	個別施策名	本市の地域資源と課題	施策の方向	実現のための提言
1	研究・開発機能の充実	<p>新商品の開発・販売には、専門研究員と機械設備が必要となる。しかし、旭川で最も出荷額の多い食品分野でも専門研究員は非常に少ない。同様に、機械金属業、木工業など地域資源に指定されている産業分野でも専門研究員はいない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重点産業における研究員を増員して、新製品創出の基礎を確立する。 ・国や道との研究設備連携体制を構築する。 ・基礎研究や製品開発に要する資金、各種課題克服のための資金を捻出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優秀な研究員の多数確保（誘致・育成）と支援センターの充実 ・国や道との連携による研究設備の整備 ・大手研究機関の誘致と課題先進地としての外部資金獲得の推進
2	ものづくり技術者の確保	<p>旭川市は、道北地域で最も多くの高等教育機関を抱えているが、その卒業生の他、若年層、働き盛りの人々の流出が多く、ものづくり企業の衰退や弱体化へとつながっている。また、雇用条件や事業内容の魅力が弱いことから、Uターン技術者の確保も厳しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校から、ものづくり尊重の教育を強化する。 ・付加価値の高い製品開発により、雇用条件を向上させ、若年者の就職意欲を高める。 ・地元企業と連携できる大企業を誘致することで、人材の流出を防ぎ、Uターンの機会を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育分野をはじめとしたまち全体によるものづくり尊重の機運の推進 ・豊富な素材と優れた技術のマッチングによる高付加価値製品の開発支援 ・地元企業と連携できる大企業の誘致
3	高品質ブランド商品の開発	<p>大企業や海外企業によるコストリーダーシップ戦略に対し、旭川の企業は高価格ではあるが高品質な製品で差別化を図るしかない。そのためには、セグメントやターゲットの選択とそこにある潜在的ニーズの製品開発が求められる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・富裕高齢者等の誘致により、旭川家具産業などを模範とした高品質なブランド商品産業を活性化させる。 ・安価な海外製品に対し、高品質なブランド力で差別化を図る。 ・旭川近郊地域の豊かな資源と旭川の得意とする加工技術力の組み合わせで、付加価値の高い製品を開発し、販売する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・富裕高齢者の誘致と定住化体制の整備 ・高品質ブランドの確立支援 ・旭川近郊地域間の特徴的産業間の連携支援
4	自然エネルギーの活用	<p>原発問題以降、電気料金の高騰が続き、寒暖の激しい旭川にとっては、負担費用の増加が大きい。そのため、冷暖房には低コストな自然エネルギーの活用が望まれている。また、空気や水のきれいな旭川にとって、環境保全やクリーンイメージを保つためにも、自然エネルギーの導入が望まれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光や地熱による再生可能エネルギー住宅の建設を推奨する。 ・冬期間の雪を活用した夏場の冷房システムを開発する。 ・自然エネルギーのまちをPRして、対外的にクリーンなイメージを前面に打ち出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー住宅の推奨 ・雪冷房システムの導入促進 ・自然エネルギーのまちの周知
5				

個別施策シート

【第4分科会】 商業・中心市街地

	個別施策名	本市の地域資源と課題	施策の方向	実現のための提言
1	旭川産品の市場拡大となる空港都市の構築	旭川及びその近郊地域には、魅力的な観光資源やお土産品が豊富にある。しかし、その顧客出入口となる旭川空港の機能が弱いために、国内外の来訪者を十分に囲い込みできず、市場規模も拡大しにくい。	<ul style="list-style-type: none"> ・新千歳空港の負担を旭川空港が分担して、旭川空港を北海道第2の玄関口とする。 ・旭川空港に旭川産品の総合市場を作る。 ・旭川空港を北海道観光のアクセス中心地とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川空港の改名「北海道中央空港」 ・旭川空港へのJR線の引き込み ・旭川空港を核とした複合商業都市（観光、商業、医療、福祉等）の構築
2	安全安心に対する地産地消のプロモーション強化	世界的に食の安全安心が求められる中、農業が少なく味の良い旭川及び近郊地域の農作物は好評価で、また、食ベマルシェなど食のイベントも地元で定着し始めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客向けに旭川農作物のオーナー制度を確立し、安全安心な農産物を育て収穫できるシステムとそのプロモーションを推進する。 ・食ベマルシェなどのイベントを地産地消の推進に活用する。 ・アジアを中心とした近隣諸外国で、「北海道＝旭川の食」のイメージを植え付けるイベントを展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川農作物のオーナー制度システムの構築とそのプロモーションの推進 ・地産地消のイベントを積極的に展開 ・諸外国で「北海道＝旭川の食」イベントの展開
3	楽しく回遊できる買物公園商店街の仕組みづくり	若者を中心とした購買チャンネルがコンビニやネット通販へと移行しており、百貨店や地元商店街の売り上げは減少している。この対策として、宅配やネット通販との連携も図っているが、苦戦は免れない。	<ul style="list-style-type: none"> ・世代別、用途別、経済別に回遊を楽しめる複数のセグメント別商店街を再構築する。 ・顧客層別のニーズに合わせた買物配達サービスを充実させる。 ・顧客の求める商品が簡単に探索できたり、紹介できたりするアンビエントサービスをICTの機能で充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく回遊できるセグメント別商店街の構築 ・ネット通販では得られない複合的サービスの展開 ・ICTを活用したアンビエント商店街の構築とコンシェルジュサービスの強化
4	駅南口大型無料駐車場の建設	旭川市民は自動車での移動が多いことから、駐車が不便な中心市街地に集まりにくい。しかし、駅北口の再開発は完成してしまったことから、駅南口の土地を利用した無料駐車場の構築が望まれる。また、旭川の観光地は魅力的でありながらも点在しているがために、観光客のアクセスが少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・駅南口の川を跨いだ地帯に大型の無料駐車場を建設する。 ・駅南口から中心市街地を巡回するコミュニティバスを運行する。 ・駅南口横を流れる川を出発点として、水陸両用車で旭川の点在する観光地を巡るツアーを展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅南口大型無料駐車場の建設 ・中心市街地巡回コミュニティバスの運行 ・旭川版ダックツアー（ボストンの観光事例）の展開
5	なんとなく旭川	旭川市民は、トレンドや世の中の流れに同調する傾向があるため、良い商品が揃いやすい札幌や東京で高級品を購入する傾向にある。一方、売り手の側は旭川では高級商品の購買力が弱いと勝手に判断し、低レベルな品揃えになる傾向がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川に来なければ買えない地域限定商品を取り揃える。 ・旭川の若者とデザイナーがコラボした商品を開発する。 ・東京、ニューヨーク、パリ、ロンドンなどで流行の商品をいち早く取り揃え、販売する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域限定商品の取り揃え・販売 ・各種コラボ商品の開発・販売 ・流行商品の先取り販売

個別施策シート

【第4分科会】 観光業

	個別施策名	本市の地域資源と課題	施策の方向	実現のための提言
1	感動的スポーツイベントの振興	旭川には四季それぞれのスポーツイベントがあり、市民の大会から世界大会まで開催されている。しかし、大会によってはホスピタリティに欠ける運営からリピーターを失ったり、ロビー活動の不足から大きな大会を他地域に抜かれている。	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川で開催されるすべてのイベントでホスピタリティの高い運営を実施する。 ・積極的なロビー活動により、オリンピックや世界大会を誘致する。 ・医大等との連携で、スポーツを用いた健康増進ツーリズムを展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティの高いイベントの推進 ・冬季オリンピックの誘致 ・スポーツ健康ツーリズムの展開
2	日本まるごと体験イベントの提供	交通網の発達や社内旅行の縮小から、旭川の観光は通過型となっている。また、その穴埋めとして、海外からの観光客を受け入れているが、日本の風土や常識を知らないために観光施設では対応や処置に大きな労力を要している。	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊しなければ体験できないイベントを多数取り揃え、滞在型の観光を増加させる。 ・海外の観光客が初めて来旭した際に日本の風土やマナーを教育するイベントを展開する。 ・日本のお祭りや文化、スポーツなどを一挙に体験できる連泊イベントを常時開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・滞在型観光客用の夜間イベントの展開 ・外国人向け日本風土マナー教室の実施 ・日本まるごと体験イベントの提供
3	ストーリーツアーの展開	旭川は歴史の浅いまちではあるが、まちづくりや芸術文学のストーリーが多数あるまちである。これらの拠点、例えば、三浦綾子の生い立ちとその作品、舞台となった土地などを巡るツアーは、新たな旭川ファンを獲得する機会となる。	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川の歴史とまちづくりが分かるツアーを展開する。 ・旭川の芸術文化に関するストーリーを巡るツアーを展開する。 ・ストーリーツアーに合ったまちづくり（橋のネーミングなど）を行う。 ・ストーリーツアーに合ったお土産や食事を開発し、販売する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ストーリーツアーの実行 ・ストーリーツアーに合ったまちづくり ・ストーリーツアーに合った商業展開
4	観光地口コミ発信基地	近年の顧客の判断価値は、口コミに対するウェイトが高く、また、観光客もSNSを中心に小まめに情報発信する傾向にあり、これらの仕組みを利用したプロモーションは新規顧客獲得の大きな手法となる。	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地には、すべて無料のWifiを設備する。 ・大きな観光地には、スタジオを完備し、インターネット放送局を貸し出せる体制を整える。 ・外国人向けレンタカーサービスを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地における無料Wifiの設備化 ・貸出インターネットスタジオの整備 ・外国人向けレンタカーサービスの充実
5				

個別施策シート

【第4分科会】 交流

	個別施策名	本市の地域資源と課題	施策の方向	実現のための提言
1	富裕高齢者を主な顧客としたプラチナタウンの構築	首都圏への人口集中とともに、首都圏の高齢者も並行して増加しており、移住政策が検討されている。これに対し、旭川は空港を備えて、高レベルな「医・食・住」を提供できる環境にある。	<ul style="list-style-type: none"> ・空港から旭川医大にかけての地域に富裕高齢者向けのテーマパークタウンを建設する。 ・その中で、元気な高齢者は、空港を起点としてアクティブに行動する一方、体調不良時の安心対応としていつでも医大にかかれる。 ・高知識高齢者による保育所等を企業化し、生きがいを持たせる一方、子供を持つ働く女性の安心サポート体制を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空港～医大間のプラチナタウン建設 ・高齢者医療体制の充実 ・高知識高齢者経営の保育所の開設支援
2	外国人による旭川のプロモーション	旭川には国際交流委員会があるが、交流参加者が少なく、多面的なグローバル化への機会を有効に活用できていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・高知識な国際交流訪問者の協力を得て、旭川の海外向け広報活動を展開する。 ・通訳ボランティアの協力で、外国人の医療ケア体制を充実させ、安心の旅行地・旭川をPRする。 ・語学や文化に関わる教育産業、観光産業等で、国際交流訪問者との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流からの海外向け広報の強化 ・海外からの医療ツーリズム体制の充実 ・教育産業や観光産業等における海外来訪者との共同事業経営の展開
3	旭川学芸大学の創設	東海大学旭川校の撤退により、また、少子化の加速により、若者の減少や流出に歯止めがかかりにくくなっている。この対策としてもものづくり大学の創設も検討されているが、卒業生の受け皿などの問題から、入学者の確保が懸念されている。一方、旭川には、美術館や公会堂、図書館等の文化芸術施設が設置されており、市民の交流拠点となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川の特長的文化である芸術や音楽、芸能、アニメ等を複合化した大学を創設し、グローバルな若者を旭川に集結させる。 ・駅前に若者を呼び寄せるアート広場を建設し、連動してデザイン性に優れたハイセンスな商店街を構築する。 ・北海道芸能文化の中心地となる劇場を建設し、知的娯楽産業を発展させる。 ・アニメ産業を誘致し、学芸大学の卒業生の一部受け皿とするとともに、国際的なイベント開催で、観光客の増加を狙う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旭川学芸大学の創設 ・駅前アート広場の建設 ・旭川劇場の建設 ・アニメ産業の誘致 ・各種学芸コンベンションの誘致
4	海外ビジネス交流の拡張	旭川は、姉妹都市3都市、友好都市2都市との提携が長く、親密な関係を保っている。主な交流は、交換留学などの人的交流であるが、近年、経済交流も一部展開され始めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・友好都市を起点とした旭川企業のビジネス可能性調査と進出のサポートをする。 ・海外の優秀な人材を旭川に多数留学させ、旭川での起業を促す。 ・帰国留学生が母国で旭川産品を販売する事業を起こした際に支援する体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友好都市を起点とした旭川企業の進出サポート ・優秀な外国人に対する旭川起業支援 ・帰国留学生に対する母国での旭川産品販売事業支援
5				